

『パウロの祈り①・救い』

'22/03/13

聖書箇所:エペソ人への手紙 1章 15-16節(新約 p.373-)

皆さんは、童話の「青い鳥」のストーリーをご存知でしょうか?…簡単に説明をさせていただきますと、チルチルとミチルという兄妹が、魔法使いのおばあさんから「幸せの青い鳥」を探そう頼まれて、方々を探し回るのでありますが見つけることができませんでした。しかし、実は、自分たちの家に、「青い鳥」が居た!という結末だそうです。…ひょっとしたら、私たちも、実は素晴らしい環境に置かれているのに、そういったことに気づくことができず、必死に「ないものねだり」をしまっているということはないでしょうか?

命題:パウロが、小アジアにある教会のために祈った内容とは?

実は、今回から学ぼうとしているみことばには、そういったようなことが教えられています。…どうぞ、皆さん、私たちがつい最近、このエペソ 1:3-14 のみことばから学んだことを思い出してみてください。天の神様は、私たちクリスチャンたちのことを、『天にあるすべての霊的祝福をもって』祝福してくださったんですね?…私たちが信じ仕えている真の神様は三位一体の神様です。その三位一体の内、①父なる神様は、私たちを救うための御計画を、はるか、世界の基が置かれる前から立てておいてくださって…、それを②子なる神であられるイエス様が、ご自分のいのちをもって実現してくださったわけですから、③私たちの助け主なる聖霊は、今、私たちの内側から、私たちのことを助け導いてくださっているわけです。

皆さん、分かっていただけます?どうして、聖書の神様が「愛の神様」と呼ばれているのか…。この神様は、私や皆さんに対して…、ただ頭ごなしに、『自分の敵を愛しなさい!』(ルカ 6:35)とか…、自分は何もしないで、『何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい!』(マタイ 7:12)と命じられるような御方ではありません。真の神様は、そういったことを誰よりも…、御自分でまず、実践してくださった御方なのです。ローマ 5:8 のみことばが、『しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに對するご自身の愛を明らかにしておられます。』と教えてくれているように、神様が、まず! 神に逆らっていた私たち人間を愛し、たくさんの恵みを与えようとしてくださったのです! だから、私や皆さんに救いの道が用意されたのです! そういったことを、よく分かっていたから、パウロは、そんな神様がほめたたえられることを何よりも願ったのです。

そういったことを伝えた後で、パウロは、自分の祈りの内容を、この手紙の読者に紹介します。それが、ここ、エペソ 1:15-23 のみことばです。今日から数回、このみことばを通して、パウロが、小アジアにある教会のために祈った内容について学んでいきます。そうすることによって、私たちが本当に目を留めるべきこと…、神様に感謝すべきことが、より明確になっていくことを期待します。エペソ 1:15-23 には、このように記されています。

- 15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、
- 16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。
- 17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたと与えてくださいますように。
- 18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、
- 19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができるようになります。
- 20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、

- 21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。
- 22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。
- 23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

I・救われたクリスチャンに関する「感謝」!(15-16節)

すみません。今は、15-23 節までを読ませていただきましたが、今日のところは、16 節までしか学んでいくことができません。パウロの祈り…、それはまず、「感謝」で始まっています。ここ、16 節には、『絶えず感謝をささげ…』とあるように、この当時のパウロは、祈るたびに小アジアのクリスチャンたちのことを覚えて、神様に感謝する祈りを捧げていたのです! これって、驚くべきことじゃありません?…と言いますのは、以前、皆さんにお話したように、パウロがこの手紙を書いた時、彼はローマで軟禁状態にあったわけでしょう? そんな状況の中で、彼は、『絶えず感謝をささげ』ていたというのです。一体、どうしてなのでしょう?

①主イエスに対する 信仰

ここ 15-16 節で、パウロは、どんなことを感謝していると言っているでしょう? ⇒2つのことが挙げられています。⇒①『主イエスに対するあなたがたの信仰』と、②『すべての聖徒に対する愛』というものでした…。まず、『主イエスに対するあなたがたの信仰』ということですが、何故、このことをパウロが祈るたびに感謝したのかは、明らかです。…と言いますのも、パウロは、1 コリント 15:1-5 で、「最も大切なことは、これです!」と言って、こう教えてくれていますよ? 『1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保ってれば、この福音によって救われるのです。3 私があなたがたに最もたいせつなことで伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、5 また、ケバに現れ、それから十二弟子に現れたことです。』って…。

皆さん、聞いてくださいましたでしょ?…パウロが1番に優先し、そのゆえに、1番に伝えたかったことは“救い”でありました! だから、パウロは、コリント教会であろうと、どこ地域であろうと、私たちが唯一救われるべき方法である「福音のメッセージ」を伝えたのです!

それと同じようなことを、ヘブル書の著者は、こう教えてくれています。ヘブル 11:6、『信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求めらる者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。』って…。このように、信仰だけが、私たちのことを救い…、また、真の神様に“喜ばれるための最初のステップ”だと教えるわけですから!

良いですか、皆さん。私たちが救われるための方法は、たった一つだけです。だから、イエス様は、こう教えてくださったのです。ちょっと、イエス様が言いたかった意図を含めて紹介させていただきますけれども…、ヨハネ 14:6、『わたし(だけ)が(唯一の)道であり、(唯一の)真理であり、(唯一の)いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』って…。

⇒このように、天の神様が、私たちに与えてくださった救い方法は、イエス様を信じる信仰だけであり、また、救い主はイエス・キリストだけです! だから、聖書のみことばも…、また、イエス様の弟子たちも、こ

う教えるのです！『この方以外には、だれによっても救いはありません。…』（使徒 4:12）⇒皆さん！これこそが、神様のお言葉である聖書がはっきりと教えてくれているメッセージです…。パウロは、エペソの町を含む小アジアで、多くの方が、このことを信じ受け入れて…、救われていることを確信したから、神様に感謝していたのです…。

しかし、ここで、もう1つ、皆さんに注目してほしいことがあります…。パウロは、ここ 15 節で、『イエスに対するあなたがたの信仰』とは言わずに、『“主”イエスに対するあなたがたの信仰』と言いました…。ここが大事なのです！…と言いますのも、ある教会では、「人が救われるためには、イエス様の十字架による贖いと復活だけを信じれば良いのだ！」と教えます。神学論争のようになってしまうのかも知れませんが、「イエス様を信じたその後、イエス・キリストが、その人の主人になる」と考える神学があります。しかし、私たちは、聖書のみことばが、はっきりと、イエス・キリストを自分の主として…、また、救い主として信じ、受け入れることの必要性、重要性を教えていると理解しています。

その根拠は、例えば、今日のテキストでも教えられてある、『“主”イエスに対する…信仰』というようなみことばです。こういったような表現は、他にもたくさんあります。例えば、今日のみことば以外で、はっきりと書かれているものだけでも、使徒 20:21、ローマ 4:24、ローマ 5:1、エペソ 6:23、I テモテ 1:14、ピレモン 5、ヤコブ 2:1、II ペテロ 1:1 などがあります。何より、『イエス・キリスト』という呼び名の、『キリスト』という部分が、救い主…、つまり、神様のことを指しているわけじゃありません？

どうか、皆さん、思い出してみてください…。私たちは、主イエス様を信じた時、イエス様のことを、ただ単に、父なる神様が私たちを救うために遣わされた“道具”のようなものと理解しましたか？⇒そうじゃなかったでしょ？私たちは、あのイエス様のことを、真の神様として、また、唯一の神様として…、すべての創り主だと考えて、信じたはずですよ。イエス様は神様なのです！だったら、その神様を主人としない…、自分が仕えるべき御方だと信じ受け入れないというのは、逆におかしくないですか！

だから、例えば、多くの方が救いの根拠としている、ローマ 10:9-10 のみことばは、何と教えてくれていますか？⇒『9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを 主 と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。 10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。』⇒ここでも、『イエスを主と告白し…』とあるじゃないですか！じゃあ、もし、主と告白しなかったら、どうなるのでしょうか？…救われないのじゃありません？また、使徒の働き 16:31、ピリピの看守が救いについて尋ねた時、パウロとシラスは何と答えました？「イエスを信じなさい！」でしたか？違いますでしょ！⇒『 主 イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。』…そう言ったのです！

どうぞ、皆さん。ここで、I テサロニケ 1 章のみことばを紹介させていただきます。ここで、パウロは救いに関する説明をしていているわけですが…、そこで、パウロは、テサロニケ教会のクリスチャンたちが、どのようにして救われたか？について、こんな風に説明してくれています。I テサロニケ 1:8-10、『8 主のみことばが、あなたがたのところから出てマケドニアとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。 9 私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、 10 また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。』

⇒良いですか？皆さん！ここで、パウロは、信仰を持って救われたテサロニケ教会のクリスチャンたちの

ことを、「あなた方は、かつて、石や木で作られただけの偶像に仕えていたのが、生ける真の神に仕えるようになったのだ！＝真の神様のことを、あなたは主として信じ…、迎え入れたのだ！」ということを見せてくれているのじゃありません？

どうか、皆さん、考えてみてください！私たちは、石や木でできただけの偶像に仕えながら、それと同時に、真の神であられるイエス様にも仕える！ということができるとは？…いいえ！ある時、イエス様は、こう教えてくださいました。マタイ 6:24、『だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。』って…。このように、私たち人間は、同時に、2人の主人に仕えることはできないのです！

でも、ある神学者の方はおっしゃいます、「かつて、石や木でできただけの偶像を信じ仕えていた私たちが、いきなり、真の神様のことを信じ仕えることができるだろうか？…だから、そこに信仰が必要なのであり、まず、信仰を持って救われてから…、“その後で”、私たちは、神様のことやイエス様のことを、自分の主人として迎え入れることができるのではないかと？」って…。

でも、果たして、そうでしょうか？…例えば、I コリント 12:3 のみことばは、こう教えてくれています。『…聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。』って…。これまで、私たちが何度も学んできましたように、救いというのは、100%神様の御業です。…でしょ！その神様が、私たちに働きかけてくださって、私たちは初めて、イエス様のことを信じていることができるし…、救われることができるのです。

確かに、私たち人間は皆、自分の知恵や研鑽では真理に到達できないし、イエス様を信じることもできません！そこには、間違いなく、先週学んだように、聖霊なる神様の働きがあるのです！…だったら、そこに、「私たち人間が、いきなり、イエス様を主として迎え入れるのは不可能だ！」なんていう議論が必要でしょうか！…だって、神様には、どんなことだってできるし…、私たち人間にはできないからこそ、神がしてくださったわけですよ！…神には、どんな不可能も無いのです！

ですから、どうか、皆さん。忘れないでください！クリスチャンである皆さんは、イエス様のことを、ただ、救い主として信じただけじゃありません！皆さんは、真の神であられ…、と同時に、救い主でもあられるイエス様のことを信じ…、また、あなたの主人として迎え入れられたはずなのです！

②すべての聖徒に対する 愛

そして、もう1つの…、パウロが祈りにおいて神様に感謝をささげていたこと…。それは、エペソを始めとする小アジアの諸教会が、『すべての聖徒に対する愛』、言い換えれば、「すべてのクリスチャンたちに対する愛」を持っていたことです。確かに、そういったような…、ある種の隣人愛は、聖書のみことばが教えているところで、間違いなく、神様も喜んでくださるものですが、実は、パウロが感謝した理由は、それだけが理由ではありません…。実は、そういったクリスチャンに対する愛というものは、イエス・キリストを信じて、救われた者の特徴なのです。だから、パウロは、そのことを殊更(ことさら)に喜んだのです。

例えば、使徒ヨハネは、I ヨハネ 3:9-10 で、こう教えてくれていますでしょ？『9 だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。 10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。』⇒このみことばが教えてくれているように、イエス様を信じて、新しく生まれ変わらされた者たちは皆、同じ神様によって救われた兄弟姉妹たちのことも愛そうとするのです！

どうか、皆さん…。先週も引用した、1ヨハネ 3:21-24のみことばもご覧ください。『21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、22 また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。23 神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。24 神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るので。』』

⇒先週は、このみことばから、「私たちに救いの確信を与えてくれるのは、聖霊なる神様の働きである！」ということ学びました。でも、今日は、このみことばから、また違うことを学びたいと思います。実は、ここ 23 節で言われている『神の命令』というギリシャ語の言葉(ἐντολή)には、単数形が使われています。…でも、皆さん、ここ 23 節のみことばをよく観察してみてくださいませぬ？…神の命令が“2つ”書かれてあるように見えませぬ？

⇒それらは、①私たちが御子イエス・キリストの御名を信じることと、②キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うこと、です。確かに、このみことばは、文法的に言えば、1つではなく、2つの命令が記されています。しかし、聖書的に見れば…、神様の目には、1つの命令だけなのです！…と言いますのも、1つ目の命令通り、イエス様を信じて救われた者たちは皆、そのイエス様に従う者となって、私たちが互いに愛し合う者となっていきます！

常日頃、多分、私はよく、他の教会では、こうだとか、あるいは、これは聖書的に見て正しくない！という風な話しをさせてもらっていると思います。確かに、そういったような、正しい聖書的な理解というようなものも必要です！…でも、聖書的に言えば、そういったことよりも、さらに大切なもの…、私たちがより優先しなければならぬものがあります。…それは、何でしょう？⇒それは愛です！

だから、使徒パウロも、当時、たくさん問題だらけであったコリント教会に対して、『1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちませぬ。』(I コリント 13:1-3)と、か、『こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。』(I コリント 13:13)と、あるいはまた、『いっさいのことを愛をもって行いなさい。』(I コリント 16:14)ということを教えたわけです。』

良いですか？皆さん！…私も気を付けないといけないのは、知識は、単なる知識です！…そんなものを、教えられたら、比較的簡単に身に付きます。しかし、大切なものは、私たちの生き方であり…、この聖書のみことばやあのイエス様が教えてくださったような、神の愛を実践できるかどうかです！神様が、私たちが愛してくださったようなアガペーの愛をもって、私たちが愛し合えるかどうかです！

だから、つい先週も学んだように、1ヨハネ 3 章のみことばは、私たちが、そういったような、“神の愛”を実践できているかどうかで、私たちが本当に救われているかどうか、ある程度判断できる！ということを知ってほしいのです。先週も引用したみことばですけれども、もう1度、ここで紹介させてください。1ヨハネ 3:17-19 に、こうあります。『17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。19 それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。』って…。

このように、大切なのは、私たちが神の愛を実践できているかどうか？実践しようとしているかどうか？です。…そう言えば、マタイ 25 章に記されてある3つ目の例え話でも、イエス様は、兄弟姉妹に対して、神の愛を実践できているかどうか、その人が本当に救われていたかどうかを明らかにする！ということを知ってほしいのです。

⇒そういったことは、もちろん、イエス様や使徒ヨハネの教えだけに限りませぬ。当然、パウロだって同じことを教えてくれています。例えば、コロサイ 1:3-6 が、ほとんど、同じようなことを教えてくれています。『3 私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。4 それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたからです。5 それら(=キリストに対する信仰とすべての聖徒に対する愛)は、あなたがたのために天にたくわえられてある望みに基づくものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの中で聞きました。6 この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。』』

⇒ここで、パウロは、信仰と愛と、希望というものを挙げてくれています。それらは、ちょうど、I コリント 13:13 で永遠に続くものとして紹介されていますが、それらを、コロサイ教会の人たちは、福音の教えの中で聞いたのだ！とパウロは言います。…そして、それ(=福音)を、コロサイ教会のメンバーたちが、『ほんとうに理解したとき以来』、すごい勢いをもって、世界中に広がっていった！と言うのです。つまりは、(兄弟)愛も、福音に含まれているということなのです。

最後に、使徒ペテロの理解…、彼の教えも紹介させてください。I ペテロ 1:22 で、ペテロはこう教えてくれています。『あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。』⇒いかがですか？…ここでも、今まで見てきたことと同じことが教えられてあります。つまり、信仰と、兄弟愛とはセットなのです。どちらかはあるけど、もう片方は無い、…と言うのは、明らかに、おかしいと言わざるを得ないのです。…そうでしょ！皆さん？

つまりね、皆さん。もう1度、今日のみことばに戻りますけれども、パウロは、ただ単に、エペソを始めとする小アジアの諸教会が良い証しをしている…ということを楽しんだというのではなく、彼らの信仰というものが、ただの口先だけの信仰告白だけで留まるのではなく…、行ないを伴った兄弟愛によって、小アジアの教会のクリスチャンたちが、本当に福音を理解し…、彼らは間違いなく、救われている！という確信を持つことができたから、パウロは喜ぶことができたし…、それを神様に感謝したので…。

<励ましの言葉>

今日、メッセージの冒頭でも話した通り、私たちにとって1番大事なものは、信仰であり…、救いだと私も確信しています。それは、あのパウロも同じでした。だから、パウロは、彼らの信仰が本物かどうか？つまり、彼らの信仰が、ちゃんとした行ないや兄弟愛の伴ったものであるということを確認して、それを神様に感謝したので…。

でも、皆さん、救いが私たち人間にとって、最も大切なものだとしたら、1番の悲劇って何でしょう？⇒私は、それは、自分が救われていると思っていて、「実は救われていなかった…」ということだと思えます。だから、聖書のみことばは、何度も、そういったことについて警告をし…、私もまた、そういったことが、せめて、私の周りで起こらないように、何度も、そういったことについてお話しさせてもらっているのです。

今日、最後に、ぜひ、質問させてください。あなたは、イエス様を信じて救われておられますか？その信仰は、間違いの無い…、確実なものでしょうか？あなたは、それをしっかりとした聖書の正しい理解と、聖霊なる神様から与えられる確信を持っておられるでしょうか？どうか、そういったことを今一度、皆さんご自身がしっかりと吟味していただきますよう、お願いします。

そして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん、イエス様を信じる信仰は、皆さんのことを罪とその裁きから救ってくれるだけじゃない！本物の信仰は、どうしようもない私たちのことを、神様の愛に富んだ、愛のある人物へと変えていってくださいます。こんな私たちのことを、1日…、また1日と、あのイエス様のように変えていってくださるのです！…どうか、この神様にすべてをゆだねて、イエス様を、真の神…、あなたのご主人様として信じ迎え入れてください！最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。